

特集

アフター
コロナの

Women's Imaging 2023

乳腺画像診断

企画協力：坂 佳奈子 四谷メディカルキューブ乳腺外科

Breast Imaging vol. 18

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックにより、医療者はこれまで経験したことのない3年間を送りました。一方で、パンデミックにより、学会などのWeb配信やe-learningでの学習が急速に発達、普及しました。画像診断においても自宅やオフィスで出勤することなく行える遠隔読影、診断をサポートする人工知能(AI)など、パンデミックが日本全体の医療を進歩させたことも間違いのない事実です。本特集では、「遠隔読影」「Web学習」「AIによる診断サポート」の視点から、アフターコロナの乳腺画像診断を展望します。

Women's Imaging 2023

Breast Imaging vol. 18

I 総論

これからの乳腺画像診断 —人工知能(AI)と遠隔医療について学ぼう

坂 佳奈子 四谷メディカルキューブ乳腺外科

2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染症が確認され、同年4月には緊急事態宣言の発令があり、外出の制限、ソーシャルディスタンスの確保など、新しい生活様式を余儀なくされたことは記憶に新しい。外出の制限や家族以外の人との接触の制限などにより、多くの人が不安を感じたことであろう。医師をはじめとする医療者も通常の医療ができない状態となり、入院の制限、手術の制限、専門ではない分野の業務を行わざるを得ない状況など、ストレスの多い日々を送った方も多いと考える。

しかしそんな中、コロナ禍以前には考え

られないほどにIT化が一気に加速したのも確かである。新型コロナウイルス感染症は、日本のIT化を10年以上早めたと言われている。

学会や研究会、会議などは誰もが自宅や職場からWebで参加できるようになり、勉強会やセミナーを介しての学習にはe-learning方式の導入などで、自宅ですべて勉強できることとなり、われわれにとってメリットとなることも多く経験したと思う。

今回の特集では、医療分野におけるAI技術の活用と遠隔医療の2点をアフターコロナの画像診断として特集したい。この

2点に関しては、医療の未来を劇的に変えることになると思う。また、この2点は、政府の厚生労働省および総務省も推進している政府の政策の一つでもある。

AI技術の活用

厚生労働省は、保健医療分野におけるAIの活用により得られるメリットとして、①全国どこでも安心して最先端の医療を受けられる環境の整備、②患者の治療などに専念できるよう、医療・介護従事者の負担軽減、③新たな診断方法や治療方法の創出の3点を挙げている¹⁾。